

スマート畜産技術の活用に関する支援

畜産技術センター普及指導課

実施期間:令和3~7年

課題・目的

■スマート畜産技術の県内への導入状況を把握するとともに、各技術のメリット、デメリットや利用上の留意点について課題整理を行い、経営体の目的にあった利用方法について支援を行いました。

活動内容

■スマート畜産技術の導入状況調査による、令和7年3月末の導入状況

単位:経営体

畜種	酪農	肉牛	養豚	養鶏	備考
導入経営体数	34	11	7	17	複数技術を導入している経営体があることから、内訳合計は導入経営体数と一致しない
内訳	ICT関連技術	29	11	4	1 群管理システム、遠隔管理システム等
	ロボット関連技術	26	5	10	30 自動給餌機、哺乳ロボット、自動集卵システム等

■酪農や肉牛経営体を中心に導入されている哺乳ロボットの活用支援のため、哺乳子牛の胸囲、体高を測定し、適切な管理技術について助言を行いました。

■汚れの付着しやすい哺乳ロボットの飲み口周りや内部のミルク製造部品等に対して洗浄前後の汚れを数値化し、哺乳ロボットの適切な洗浄方法について理解して頂き、実施してもらいました。

■導入前後の哺乳子牛の発育状況を比較したところ大きな差はなく、安定して発育していました。



哺乳子牛発育測定の様子

今後の展開

■スマート畜産技術による労力の軽減、家畜伝染病対策の強化、家畜の生産性向上への効果が期待されており、今後も導入する経営体が増えていくことが望まれます。

■導入に当たっては、経営規模、飼養環境等に応じた経営体ごとの検討が求められるため、効果が発揮できるよう今後も指導・支援を行ってまいります。